

## 次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でのいただいた御意見の概要

### 1 会の名称

平成 30 年度第 1 回県央広域振興圏経営懇談会

### 2 県側出席者

盛岡広域振興局

政策地域部政策推進室

### 3 開催日時

平成 30 年 5 月 24 日（木）13：00～16：30

### 4 主な御意見の概要

#### ○ 指標設定の考え方に関すること

- ・ 今回の総合計画では「幸福」を一つの理念としているが、施策の効果をどのように見るのか。客観的指標のみにしてしまうと、従来の K P I とあまり変わらないので、ある程度主観的な指標を取り入れようとするのが、幸福度指標設定の重要な柱だと思うので、検討いただきたい。

#### ○ 人口減少対策に関すること

- ・ 定住人口を増やしたいという思いはあるが、なかなか難しいところがあるので、観光などで交流人口を増やしていただくとともに、最近は「関係人口」という言葉もよく使われるようになってきており、必ずしもそこに住んでいなくても、いざというときにはサポートするというような交流関係の持ち方もあるのではないかと。そのような関係をうまく作って、そういう意味での人口を増やすという方向性もあるのではないかと。
- ・ これから結婚や出産を考えている若者が不安を抱かないように、子育てなど地域の人が支え合う新しい仕組みを作っていく必要がある。
- ・ 地元に戻りたいけど仕事がないという若い人の声を聞くので、その受け皿を増やすとともに、そうした情報発信を強化してほしい。

#### ○ 第一次産業に関すること

- ・ 「銀河のしずく」のブランド化について、安定供給を行うとともに、品質管理を徹底していく必要がある。
- ・ 昔は学校林があり、子どもの頃から植林や保育について学ぶ機会があったが、現在は林業に触れる機会が少なくなった。そうした林業に触れる機会を作ることが、担い手確保対策になると思う。
- ・ 大都市圏から距離があるので、輸送には時間もコストもかかることを考えると、第一次産業から生み出される生産物に付加価値をつけることが重要ではないか。そのために、大学など産学官連携による共同研究を強化していく必要がある。

## ○ 人材育成に関すること

- ・ 若者を育成する場合、昔は背中を見て学べというところがあったが、世代間ギャップで上手くいかないところがあるので、今の時代に合った人材育成を考えていかなければならないと思う。また、働き方改革の推進により労働環境の整備が求められているが、労働時間を減らすだけでなく、働きがいや生きがいなどの観点も盛り込んでほしい。

## ○ 地域コミュニティに関すること

- ・ 私の地域では、「自助」「近助」「共助」「公助」の4本柱で取り組んでいるが、子ども、高齢者、介護を必要とする人など弱者と呼ばれる方々をどうやって地域として守っていくか。住民の勉強の場も必要になるし、関係機関と自主防災会等の住民組織をつなぐ中間支援のような場も必要になる。中間支援者に対する支援が必要であるとともに、防災を考える上で、コミュニティのあり方や防災教育を考えるべきである。
- ・ 若者や女性の活躍による地域振興という言葉があるが、女性が社会進出し、核家族化も進んでいる現状で、女性は忙しい。一方で、高齢者でも元気な方が多いことから、地域で活躍してもらい、生きがいややりがいを持ちながら、これまで社会で学んできたスキルを地域で生かしてもらおう。女性に特化せず、男性も同じようにコミュニティの担い手と考え、結果として若いお母さんたちが働きやすい環境を地域の中で作っていけるようなまちづくりが必要ではないか。